

### 遊佐町民憲章 昭和55年4月1日制定

遊佐町は、恵みの多い鳥海山と日本海と月光川の清流にはぐくまれ、創造性豊かな歴史と文化を持つ田園のまちです。わたくしたちは、このすぐれた風土を愛し、いっそうお互いのしあわせとまちの繁栄をきずくため、ここに町民憲章を定めます。

1. わたしたちは心と体をきたえやすらぎのある家庭をつくります。
1. 思いやりの心をもちお互いに助け合います。
1. きまりを守り、時間を大切にし良い風習をつくります。
1. 働くことにほこりをもちすすんで仕事にはげみます。
1. 自然を大切に、文化を高め住みよいまちをつくります。



遊佐町長  
時田 博機  
Tokita Hiroki

## 夢と希望の抱けるふるさとを

町民が主役、行政が支援するまちづくり

遊佐町は東北の秀峰鳥海山の懷に抱かれ、その豊かな自然は、町民にとっても生活の要である水の源であり、長い年月を経て湧き出てくる水は農業・漁業だけでなく、様々な生態系、歴史文化、産業を育んできました。

私たちは鳥海山の自然と湧水をはじめとする豊かな里山を後世に残すため、環境や景観に配慮したまちづくり、安全安心して暮らせる災害に強い居住環境の維持、新エネルギーによる環境負荷の低減など、循環型社会の推進に努め、自然と共生するまちづくりを目指しています。

まちづくりのキーワードは「働き場・若者・賑わい」とし、地域経済の活性化を図り、企業誘致や交流人口の拡大、若者定住、暮らすことに夢と希望の持てるまちづくりに取り組み、子供から若者、高齢者まで暮らしやすい、住む人の笑顔が見える町「いきいき遊佐」の再構築をめざし、施策の総合的な展開を図っていきます。

平成24年3月



**遊佐町章**  
「ユザ」の字を図案化し、上部は鳥海山を表現。中部の翼は町の飛躍的發展を図り、下部は手をたずさえた人文字で「平和と親睦」を象徴する町章は、昭和45年に制定されました。



**町の花 | チョウカイフスマ**  
鳥海山にのみ生育する高山植物で、高山の厳しい自然のなかで砂礫や岩のすき間に根をおろし、風雪に耐えながら美しい花を咲かせるこの花は、わが町を代表するにふさわしい花です。



**町の木 | クロマツ**  
日本三大砂丘のひとつである西山一帯に、風砂から住民を守るために植林した。大地に根をおろし、四季を通じて緑をたたえ、風雪に耐え人々を守りぬいてきたわが町を代表する樹木です。



遊佐町イメージキャラクター  
Be~chan  
米~ちゃん  
べ

平成16年11月3日、第2期少年町長・少年議会が町に提案し、正式に町のイメージキャラクターとして認定。遊佐町の主要作物であるお米がモチーフ。頭の帽子部は鳥海山をかたどり、豊穠な土地と町民の元気を表しています。

姉妹都市 | ハンガリー・ソルノク市 | 平成16年8月1日 兄弟町 | 宮城県大崎市(旧鳴子町) | 平成4年10月30日 友好都市 | 東京都豊島区 | 平成16年8月1日

### 政養祭 | せいようさい

**明** 治維新後、新橋、横浜間に日本で最初の鉄道を敷設した佐藤政養は升川出身で、吹浦駅前に銅像が建つ。政養は勝海舟塾の塾頭を務め、坂本龍馬が弟子にあたり、幕末に横浜開港を提唱した人物としても伝えられている。升川に鮭が遡り始める季節、鉄道記念日にあたる10月14日に、佐藤政養像の前で「政養祭」が催される。銅像は、昭和39年に当時の国鉄等によって建てられた。政養は東京の青山霊園に眠っている。



10月14日に吹浦駅前行われる「政養祭」

### 藤蔵祭 | とうぞうさい

**秋** の深まる11月10日、西遊佐小学校の体育館で「藤蔵祭」が開かれ、この地域の植林事業に生涯を捧げた佐藤藤蔵の偉業を讃え、小学生たちによる研究発表が毎年行われている。藤蔵は西山の砂丘地にクロマツを植林するため、風を防ぐ巨大な垣を作り、砂丘の土壌を改善するためにネムノキを植えた。この手法は佐藤藤蔵によって編み出され、現代の植林事業にもひろく用いられている。「藤蔵祭」は地域の子どもたちに、地域の歴史と文化を語り継ぎ、先人の偉業を未来に伝えることを目的とした行事でもある。



11月10日に西遊佐小で行われる「藤蔵祭」

### 諏訪部祭 | すわべさい

**水** の張られた田圃の上を薫風が渡る5月15日、八日町の本願寺の諏訪部君碑前で「諏訪部祭」が行われる。文化元年六月、鳥海山の噴火と大地震が発生し、遊佐郷に大きな被害をもたらした。当時、庄内藩の遊佐郷代官であった諏訪部権三郎定令(ごんざぶろうさだとし)は藩主の許可を得ないまま、郷蔵を開け、米四千俵を村人に供した。村人たちはその米で命を救われたが、諏訪部はその責任を問われ、遊佐郷代官の職を解かれた。「諏訪部祭」は諏訪部権三郎定令への感謝の念を、いまでも忘れぬように毎年開催されている。



5月15日に本願寺で行われる「諏訪部祭」

### 載邦碑祭 | たいほうひさい

**江** 地の玉龍寺では、7月16日に「載邦碑祭」が行われ、楸島おすわり大黒舞保存会によって「おすわり大黒舞」などが披露される。天保11年、庄内藩主酒井忠器(さかいただかた)は、幕府から国替えの命令を下されたが、その命に庄内の農民は激しい反対運動を展開。9ヶ月間に及ぶ直訴が実を結び、国替えはついに取り消された。「載邦碑祭」は直訴活動の中心人物となった玉龍寺の文隣和尚(ぶんりんおしょう)を讃える催し。藤沢周平の『義民が駆ける』は、この転封反対運動をテーマとした小説として知られる。



7月16日に行われる「載邦碑祭」の「おすわり大黒舞」

この地に縁をもった先人たちの偉業を学び、地域の明日を拓く、私たちの道標としたい。

## 明日に語り継ぐ、歴史と文化



Yuza on My Mind